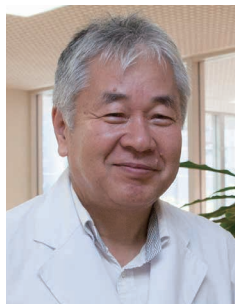


近森病院第二分院



近森病院総合心療センター
センター長 明神 和弘

近森病院との統合

近森病院精神科（7病棟）

第二分院の前身は昭和43年近森病院脳外科科長、長尾朋典先生の精神科外来開設が始まりで、同年10月には45床の精神科病棟が現在のリハ病棟の中央付近に新築されました。

私が研修医として近森病院に来ていた昭和57年頃は、まだ開設時の建物で畳敷きの病室があり、いかにも古い精神科といった様子でした。多くは統合失調症の患者さんで、時間はゆっくりと流れていたように思います。

第二分院開設と社会復帰の開始

長尾先生、後藤弘先生、山口栄次先生の後、昭和56年から田村雅一先生と梶原和歌統括看護部長が精神科の科長、婦長となり、58年4月には精神科病棟を新築、現在の総合心療センター西棟部分に移転しました。

この時期からデイケア、作業療法、訪問看護を始め、社会復帰の取り組みが始まりました。翌59年10月には田村先生が院長になり近森病院第二分院が開設されました。昭和54年にメンタルの前身の分院が開設されていたため第二分院と命名されたわけです。

在宅支援の充実

平成5年に私が再び近森病院に着任

の頃は建築後10年経過し、病室も狭く急性期医療やうつ病の治療を行うには適さない病室でした。新たに建て替えと地域生活を支援する社会復帰施設を要望するため、第二分院5カ年計画を理事長に提出、訪問看護ステーションラポールちかもり、メンタルクリニックちかもり、援護寮まち、地域生活支援センターこうちを開設して在宅機能が充実してきました。

平成10年には田村先生に変わり院長に就任しました。病床数の少ない第二分院でこれから先どのような医療を展開して行こうかとスタッフ一同が車座になって話し合ったこと（「ひろっぱ」160号）が楽しい思い出となって



▲サーモコンの1病棟の西側に接して建設された7病棟。写真は取り壊し直前の写真。ここは現在の近森リハビリテーション病院の場所にあたる（『医療法人近森会50周年記念誌歴史篇』から）



▲平成15年に完成した現在の第二分院の屋上で（「ひろっぱ」207号2003年10月刊より）



▲当時のスタッフにとってこの車座談話は院長、総婦長、事務長と一堂に会して将来像を確かめるという機会に恵まれることになった。（「ひろっぱ」160号1999年10月刊より）

います。

急性期とうつ病包括的支援システム

5カ年計画の最後は病院の新築です。平成15年に病院が完成、今まで入院対象とできなかったうつ病の方も広い病室と個室を設け、アメニティも改善し入院できるようになりました。ストレス外来、うつ病のリワーク専門のデイケアパティオの開設で、うつ病の包括的な治療システムができ、病棟機能も急性期病棟と回復期病棟に機能分化させ、在院日数の短い病棟運営を行うことが出来るようになりました。

次頁につづく

そして現在

近年、精神医療の進歩と自立支援の充実に加え、若年人口減少の影響で入院する患者比率も大きく変わり、やや長期療養を必要とする回復期病棟の稼働率の低下が顕著となってきました。私たちが目指した入院期間の短縮の結果かもしれませんが、思い切って回復期病棟

メディカルスタッフ ワークウェア 15 歯科衛生士

モデル：影山香さん（左）、北川弥生さん
必需品のペンライトを持って



▲歯科衛生士の七つ道具 ▲口腔の運動のための道具

歯科衛生士のワークウェアは目にも鮮やかなブルーで、DH(Dental Hygienist)の刺繍を付けている。急性期で働く歯科衛生士の主な仕事は患者さんの口腔内を清潔に保つこと。

口腔内細菌が全身の健康に及ぼす影響は大きく、患者さんの健康を守るためにも欠かせない。患者さんの状態に合わせ、歯、歯茎、舌の清掃はもちろん、口腔内の保湿にうがいの介助、入歯の清掃などを行う。

回復期では衛生保持と併せて、口腔機能の向上と退院後もシームレスな口腔ケアが継続できるようにサポートすることに力を入れている。身近なものと歯科材で作った器具で、噛む力、口を閉じる力、舌を持ち上げる力を強くする練習を工夫して行う。口腔を通して豊かな表情でその人らしく生きる事と、日々の充実した生活の後押しが出来るよう、今日も行き活きと頑張っている。



『医療法人近森会 50 周年記念誌 歴史篇』から第二分院のベランダで勢ぞろい。左端が田村先生がその人らしさを失うことなく、社会でこころ豊かに前向きに生きていけるよう全力で努力します」の理念のもと、患者さんが一日も早く、住み慣れた場所で、その人らしい生活ができるよう、入院期間を出来るだけ短くし、外来で支えていこうと努力してきました。

近森病院は 5 カ年計画で病院機能の再編を進めています。その一つとして救命救急センターを持つ高機能な急性期病院の近森病院のなかに、第二分院の精神科を統合、各科と連携して身体合併症を持つ精神障害者にも対応できる医療の提供は、時代の趨勢かと感じ統合することになりました。

最後に

わたしたちの病院は、開設以来「患

今後も精神科医療の充実に努め、障害者の自立を支援していきますのでよろしく願いいたします。

みょうじん かずひろ

井上靖は複数ジャンルの小説を書いたが、歴史物では「天璽の薨」と「敦煌」が代表作だろうと思う。私が「敦煌」を読んだのは手元の古い新潮文庫の発行年から推測して中 3 のようだ。高 1 かもしれない。一方、映画は佐藤浩市主演で 1988 年に上梓された。物語は、本来なら間違いなく進士試験に合格して官吏になりこの世の春を謳歌できたはずの秀才が、最終面接を待つあいだについ居眠りして失格となり、安心して歩いた開封

(宋の首都)の街中での出来事をきっかけに、進士試験にこだわっていた自分をひどくつまらないと思うくだりに思春期の心を捉える仕掛けがあり、貰った布の“西夏文字”に導かれて、漢人(本来の中国人)で構成された「西夏」軍の外人部隊に身を投じるというものだ。主人公と漢人傭兵隊長の運命を導くウイグル族の王女は、小説では名前のない陰の人物だが、映画ではツルピアという名で、中川安奈(あた)り演じる美しい美女である。この辺は小説と映画でかなり違っている。ウイグル族はチュルク系民族(現代ではトルコ、ウズベキスタン、カザフスタン、中国の新疆ウイグル自治区に住む)に属す

るコーカシアン(白人)で、インターネットで見ると女性は欧米白人以上の美女がいる。中川安奈はドイツ人のクォーターで、容姿から適役だった。一方、西夏国王はタングート人(青海省のチベット系民族)で、西夏国はチベット人/ウイグル人/漢人の複合国家だった。この辺の民族錯綜は世界史の面白さである。主人公は瓜州の権力者/曹延恵(漢人)の西夏懐柔策である、漢語仏教経典を西夏語に翻訳する仕事

に携わる。原作では敦煌(沙州)の権力者は延恵の兄、曹賢順だが、映画では曹延恵が敦煌の権力者となる。瓜州と沙州は当時、宋本国から遥かに遠く隔絶された漢人支配の弱小

都市国家だった。西夏は東から涼州→甘州→肅州→瓜州と順次征服し、沙州(敦煌)も滅ぼした(井上靖は滅亡を 1037 年としている)。

映画では、主人公が仏教経典を莫高窟に隠しに行く場面と、傭兵隊長が西夏王に挑む沙漠の戦闘場面の、交互切り替えのクライマックスは緊迫感で秀逸だ。隠された仏教経典他の膨大な文書は 1900 年に発見され、英仏の探検家に極めて安価で買い取られ“敦煌文献”として世界に知られるようになった。

気儘エッセー 5

井上靖「敦煌」 原作と映画



近森病院外科部長
たなか ようすけ
田中 洋輔

野蛮な脳血管撮影で磨いた真剣さ ～頸動脈直接穿刺法～

近森病院神経内科

主任部長 山崎 正博



「明日、首のところに針を刺して、脳の血管を撮影します」といわれたら、皆さんはどのような印象を持たれるでしょうか？

「なんと野蛮な」、あるいは「危険な」、と思うでしょう。しかし 35 年前は脳外科、神経内科とも、脳の血管を見ようとすればこのような危険と隣り合わせの検査法しかありませんでした。

首を回旋する必要から、総頸動脈は可動性です。まずは総頸動脈の左右に十分な麻酔薬を入れて固定することから検査はスタートします。うまく固定できれば検査は半分終わったようなものです。次に表面麻酔をして、指で頸動脈をさらに固定し、一気に穿刺針を進めるのがコツです。ゆっくり穿刺すると血管が逃げます。穿刺する瞬間は術者が呼吸を止めるほど緊張します。中途半端に動脈血が逆流して穿刺に失敗するとたいへんです。血圧が 120

程度ありますので、血腫を作らないよう圧迫止血に長時間かかります。止血不十分で急速に大きくなった血腫で気

私の趣味

運動とストレッチ

近森リハビリテーション病院

医療秘書 横田 百



「運動すると脳にエンドルフィンが分泌されて幸せな気分になる」ある映画のセリフです。趣味の一つである映画鑑賞で、よほど運動不足を気にしていたのか、心のどこかにいつもありました。とはいうものの、なかなか積極的に運動をしよう

管が圧迫されて致死的になる、と上司から脅されていましたので真剣でした。

その後、セルジンガー法が脳血管撮影にも応用されるようになり楽になりました。しかし、緊張して検査を行った経験が体で覚えることの大切さを教え、その後の観血的検査の自信につながりました。

今の時代、MRI 検査で MRA を選択すれば脳血管が見えます。患者は危険なく、医師も楽です。しかし、医療行為で大事な何かを失った、と思うのは私だけでしょうか。やまさき まさひろ

としなかった私の家の近所に、女性専用 30 分フィットネスのカーブスができたのです！ 看板ができるにつれ、冒頭のセリフが蘇り、オープンして間もなく即入会、通い始めて早 3 年 2 カ月になりました。

運動の内容は、有酸素運動と無酸素運動を 30 秒ごとに繰り返し、2 周で 24 分、ストレッチ 5 ～ 6 分で合計 30 分と運動音痴の私でも続けられるものです。会員の年齢層も 10 代からかなりのお年寄りと広く、普段出会うことがない人との出会いもあり、友達もできました。通うこと自体が義務になり、足が遠のくこともありましたが、週 2 ～ 4 回はストレス発散としてマイペースに汗を流しています。また、100 回毎に数字がプリントされた T シャツを集めるのも趣味の一つなのです。よこた もも

昭和 39 年（1964）3 月のライシャワー傷害事件の加害者が精神を患っていたために、昭和 35 年（1960）に 9 万床だった精神病床は 10 年後の昭和 45 年に 25 万床へと急増、高知でもいわゆる患者狩りが行われた。入院によって精神障害者を社会から隔離する方向へと変化し、収容型医療が大きな流れとなった。ちょうどそうした時期の昭和 43 年 10 月に旧 7 病棟が現在の近森リハ病院の地に完成し、当院でも精神科医療が始まった。

当時はすべてが畳敷きの大部屋で、患者さんは一日中外に出ることもなく病棟でボーッと過ごし、夜になると枕をつきあわせてぎっしりと寝ていたことを覚えている。4 階建鉄筋コンクリート造であったが、建物もひどくエレベーターもなく、東隣りの基礎のないサーモコン造りの外壁が壁面で、雨漏りがしたり、壁がずれたりしていたいへんだった。

こうした状況のなかに、昭和 56 年 5 月に田村雅一先生（現 メンタルクリニックちかもり院長）と梶原和歌婦

あるべき精神科医療を求めて



近森 正幸

長（現 統括看護部長）が 3 人の看護婦さんをつれて近森病院にきて下さった。チームを組んで公園を散策したり農園で作物をつくったり、旧管理棟の職員食堂でデイケアとして働いてもらうなど、当院の精神科医療に新しい風を吹き込んでいただいた。ハード面でも昭和 58 年（1983）4 月には北館東側の地に近森病院としては最新鋭の 104 床の精神科病棟「新 7 病棟」を立ち上げた。

翌年 9 月に新 7 病棟が近森病院第二分院として独立。それ以降現在まで精神科の専門性を活かしながら医師、看護師だけでなく、作業療法士や臨床心理士、ソーシャルワーカーなどのチーム医療で新しいプログラムを展開。精神障害者であっても、入院からデイケア、外来、さらには訪問看護ステーションや福祉と連携し、就労支援や社会復帰を図っている。まっとうな精神科医療を行っているということで、多くのスタッフや大学からも優秀な看護師が集まってくれている。

今回 60 床の急性期病棟に特化し、近森病院の総合心療センターとして再出発することになった。今後さらに質の高い精神科医療を行うとともに、救命救急センターと連携することで、精神障害者の身体疾患にもいち早く対応できることになる。

早く治し、早く家に帰っていただくという近森の理念が、今後の精神科医療にこれまで以上に活かされるものと期待している。

理事長・ちかもり まさゆき

整形外科特有の看護を 体験できるコース

近森病院シニア看護師長 斉藤 尚子
近森オルソリハビリテーション病院
6階病棟看護師長 松岡 正美



このコースは、急性期から回復期そして在宅につなげていくまでの整形外科特有の看護を体験できる1日コースです。

急性期では、ERでの患者さんの受け入れから始まり、病棟での看護体験、手術室の見学をしていただけます。

そして回復期についてはオルソリハビリテーション病院へ移動し、自宅復帰に向けたリハビリテーション、病棟見学をした後に、装具を装着した場合の患者体験や、実際に自分の骨塩定量や血管年齢などを測定することができます。

インターンシップに参加することで、各職種のメンバーがそれぞれの専門性を発揮して協力し合うという当院の特徴である「チーム医療」をぜひ体験していただきたいと思います。

興味のある方はぜひ参加をして下さい。明るく元気なスタッフが皆さんをお待ちしています。

さいとう なおこ
まつおか まさみ

お知らせ 医療従事者対象

- 第120回地域医療講演会
「失神診断へのアプローチ」
日時：10月18日（金）18:30～20:00
会場：管理棟3階会議室2
講師：産業医科大学医学部
不整脈先端治療学教授 安部治彦先生
- 日本尊厳死協会2013年度四国支部大会
「終末期と尊厳死の法制化」
日時：10月20日（日）13:30～16:00
会場：管理棟3階会議室
講師：野元正弘（四国支部支部長・医師）
大井田二郎氏（高知県医師会副会長）
中谷元氏（衆議院議員）
中橋紅未氏（弁護士）
小林良樹氏（元慶應義塾大学
総合政策部教授）



- 第121回地域医療講演会実習編
「第5回心臓血管ウェットラボ」
心臓の解剖と心臓治療
日時：11月10日（日）10:00～15:00
会場：管理棟3階会議室
- 第122回地域医療講演会
「発達障害のケースへの
心理援助について考える」
一小学生、中学生、青年の
箱庭療法過程を中心にー
日時：11月23日（土）13:30～15:30
会場：管理棟3階会議室
講師：高知心理療法学研究所所長
日本箱庭療法学会理事
臨床心理士 高野祥子先生

お弁当拝見 18 ごはんがすすむくん♪



オルソリハビリテーション病院
4階病棟看護師 土居 さわ



私はすごくご飯が大好きなので、家でもお茶碗2杯以上は食べています。家族にはいつも冷たい目で見られてますが、私は堂々とおかわりしちゃいます。実はお弁当が小さくていつもはみ出てるんです。いつも思うのは他の方のお弁当は少なく、それでお腹が張るのかなあ～、と感じています。患者さんの食事を下膳していても残していたらもったいないなと思います。

そんな私にお弁当拝見の依頼が来ました。すごくメニューを考えましたがやっぱりご飯がすすみそうな煮物、焼き魚（焼くだけ）に決定しました。普段はあまり



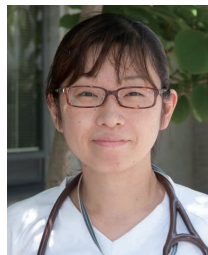
料理をしないんですが煮物は美味しいといわれたことがあって、読者に食べてもらえないのが残念です（笑）。後、かぼちゃのシチューはほんとうに簡単です。なんとかお弁当に入りきるよう詰めてきましたのでおいしくいただきます♪

どい さわ

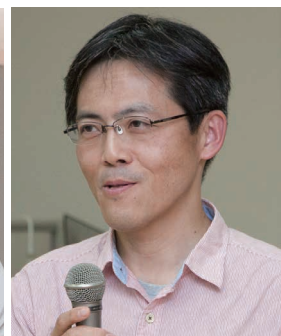
第 115 回地域医療講演会

第二回ポリオ検診会と 「下肢装具の現在の動向について」

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション科
科長 和田 恵美子



沢田光思郎先生



木下篤先生



ポリオ検診会にて

8月24日にポストポリオの診断予防を目的とした第二回ポリオ検診会を開催しました。

今年のはかがわ総合リハビリテーションセンターより木下篤先生、藤田保健衛生大学より沢田光思郎先生、そのほか多数の方にご協力いただきました。ポリオ経験者の方々も15名の参加があり、藤田保健衛生大学の小野田先生の家庭でできるストレッチ講座が好評でした。

せっかく日本のポリオの専門家が集まったので23日に「下肢装具の動向について」をポリオの装具中心に講演会も開催しました。

脳卒中装具は入門者編、ポリオ装具は上級者編といわれるだけあって、奥深い装具の世界を講演していただき、高知でもポリオの装具をつくらなくては、という機運は高まったように思います。また新しい後方平板支柱の

装具 RAPS の説明会も同時開催しました。

来年もポリオ検診会を開催したいと思いますので、ぜひご協力をお願いいたします。

わだ えみこ

院 外 エ ッ セ イ

にもかかわらず

河 上 迅 彦



●かわかみ はやひこ 本名 川上矩頭(のりあき)。1933(昭和8)年、高知市生まれ。高知工業高校機械科卒。高知大学国文科卒。元県立高校教諭。元「山河」同人。元「風土」編集発行人。小説「見えない女の子」で第14回棕庵文学賞受賞(1981年)。著書に長編小説『銀河―憂鬱な青年』、作品集『黄昏のあとで』『塔からの眺め』『香りのある部屋』。

何年も前のことになるが、ちょうど昼ちかくだったので、目についたうどん屋へ入った。ところが、さてお勘定となつて、はたと困惑した。請求された金額に相当する硬貨のかぞえ方が、さっぱりわからない。

さいわいなことに、たまたま財布の小銭入れに硬貨がかなりあったので、それらをぜんぶ手のひらに盛って、「すまんがここから取ってくれる?」と頼んで、選んでもらった。

おれもついに、認知症の仲間入りをしたか! いっしゅん背すじが凍りつき、足もとがふるえた。

そういうとんでもない変調が、日常的にとつぜん生じることに気づいたのは、それが最初であった。何年も経つのに、そのときおぼえた不安と恐怖はすこしも消えていない。

要するに、ちょっと緊張や疲れや睡眠不足などがあると、思考能力がいちじ極端に低下するのである。そんなときは、四目置かせて打っていた碁の相手に、あっという間に対にされてしまう。その日の行動をメモするというだけの

ことが、さっぱりできない。

だが、それが常にそういう状態かという、そうでもない。

「すすめ、ロシナンテよ」と、いくらドン・キホーテが声をはりあげても、「だめ、きょうはもう、おれ疲れてんの」と、やせ馬がはいつくばってしまうようなものである。だがやがて、またのろろと立ちあがる。

アタマとカラダのジグザグの変調と回復のありさまが、日々の常態としてこんなにもわかりやすく自覚できるようになったのは、ひとえに「老化」のたまものというべきか?

人びとはいつも、おのれの「ねばならぬ」使命に服している。だが、こういうしだいで、変調ただならぬわれわれ〈老化びと〉としては、もう「ねばならぬ」のほうはひと休みさせていただきたい。世のなかにはたしかに「ねばならぬ」でできているが、こっちはもう、それらへの義理も迷惑もごめんして、「にもかかわらず」で生きることを許してもらおう。

いや、どうか許していただきたい。

全国からようこそ 近森病院臨床栄養部へ

近森病院臨床栄養部
部長 宮澤 靖



臨床栄養部の今昔として何度かこの紙面に掲載していただきましたが、今回は見学者数と研修生数をお話いたします。

2003年(平成15)に栄養サポートチーム(NST)を組織、2005年には「日本静脈経腸栄養学会実地修練認定

施設」の指定を受けることができ、多くの研修生が全国からやってくるようになりました。

この施設認定は、NST専門療法士の学会認定資格を取得するために必須の研修を提供する施設に対し許可されるものであり、NST加算の専従者、専

任者にも必要な研修です。

近森病院は期間や人数を制限せず広く門戸を開いていることから北海道から沖縄まで色々な職種の方々が研修に来てくれています。これも他部署との連携協力があり、多くの研修生に対応できるだけのスタッフがいてカリキュラムをいち早く完備した近森病院の総合力の表れではないかと思います。

ちなみに2009年の研修生は年間49名に対し2012年は89名で2013年は8月末日までに63名になっています。

みやざわ やすし

第114回地域医療講演会

カテーテルアブレーション ～夢と期待から現実へ～

近森病院循環器科部長
検査部長 深谷 真彦



頻拍性不整脈の根治を目的とするカテーテルアブレーション治療で、CTによる心臓の解剖学的な三次元立体画像に、心腔内の電気解剖学的情報を融合させる技術の進歩は、とくに心房細動の治療技術を大きく進歩させました。

その後の進歩も著しく、心腔内の各カテーテル電極を3D画像上に視覚化して正確な電極位置がリアルタイムで判るようになり、最近では心腔内エコー画像から解剖学的な立体画像を作成できるようになって、さらにリアルタイム、より安全な治療が可能となりました。

また、最新の技術として通電用の電極カテーテルを最適のタッチで心臓壁にあてて(カテの特殊センサーでタッチの強さをグラム数で表示)、確実に安全な通電効果が得られるようになりました。当院にはこれらのための最新の機器が完備しています。

そこで、この領域のリーダーである弘前大学大学院医学研究科循環呼吸腎臓内科学の教授である奥村謙先生に心房細動の最新のアブレーションをライブの形でご指導いただきました(弘前大学からの奥村教授、木村講師に近森病院循環器科のスタッフなどが加わっ

て、黒潮 CARTO ライブを開催)。中国、四国、関西から多くの専門医が研修に参加されました。

このライブに引き続いて奥村教授に最新のアブレーションから将来の夢についてのご講演をお願いしました。心房細動の積極的な治療がなぜ必要かと

奥村謙先生



いう話から始まって、今後、アブレーションによる根治率が大きく上昇してくるだろうことまで、判りやすく詳しくお話いただき、専門外の聴講者にも好評でした。奥村先生ほんとうに有難うございました。

ふかたに まさひこ

ワイン講座 ● 15

日本のワイン その2

畑にこだわる

昨今の醸造技術の進歩や設備の近代化によって、昔なら、10年単位で、現れるスター的存在の生産者が、数年単位で、高く評価されるワインを造れるようになりました。

しかし、醸造テクニックに走るのではなく、流行を追いかけるのでもなく、農業の延長線上にあると考える生産者は、「ワイン造りは、良い葡萄から。良い葡萄は、良い畑から。」と、口を揃えて言います。

日本の白ワインの品質の高さを、世界に知らしめた「甲州種」。その代表と評される「伊勢原」畑から収穫された葡萄100%で造られたワイン。

この畑は、世界の銘醸地と同様に、山の斜面、しかも土壌は非常に水捌けが良く、葡萄がしっかりと根付き凝縮感のある

品名：アルガ・ブランカ・イセハラ 2012
／勝沼醸造／山梨県甲州市勝沼町●華やかで果実味豊かな味わい。飲み手の甲州種、国産白ワインの概念を変えてくれる、日本で最高の白ワインといっても過言ではありません。

葡萄が育ちます。

イセハラは、サロンと並んで、JALのファーストクラスに搭載され、支持されています。

日本で販売されている、欧米の同価格のワインと比較しても、引けを取らないし、優れているとジャッジする方も多いのではないのでしょうか。

鬼田知明
(有限会社鬼田酒店代表)

※

今後の予定、その③樽にこだわる／その④熟成にこだわる／その⑤10年先を視るのワイン造り



不足を補う漢方薬

近森病院総合心療センター

副センター長 宮崎 洋一



毎年、超ご多忙ななかご来高いたでいる静仁会静内病院院長の井齋偉矢先生が、今年も9月6日（金曜日）にお越しくださり、『不足を補う漢方薬』という演題で講義をしてくださいました。

今年は先生オリジナルのそれぞれの漢方薬の機序と効用と適応についてわ

かりやすく視覚化した【階層構造】という「漢方早分かり図」を全面改訂しておられ、さらに分かり易くなって薬全体のイメージができるものになっており驚きました。

体力、気力を補う漢方薬にしかない、いわゆる補剤についてのお話でしたが、いつものように極めて実践的で



今日から使えるレジュメつきでした。参加された先生方は、早速使ってくださいていることと思います。

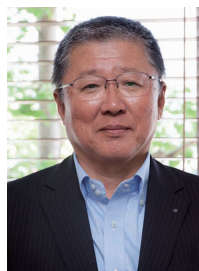
みやざき よういち

岡田玲一郎先生「傘寿まで生きてこられた感謝の会 高知」

年を重ねただけでは人は老いない。
理想（志）を失うときに
初めて老いがくる。

社会医療法人近森会

管理部長 川添 昇



岡田玲一郎先生とお付合させていたでくようになって、30年近い歳月が過ぎた。お逢いした最初は私が30代で、先生が50歳の頃であった。お互いに若かったとはいえ、幼少期より片親に育てられた私にとってはずっと父親のような存在で、今に至っているように思う。

もう少し早くゴルフを始めて親孝行をしていればとも思うが、まだまだ私

と同じ白杭からショットし、カートにも乗らず、砂袋を持ってフェアウェイを修復しながら歩いている後ろ姿を見ると、自分の若造ぶりに自虐の念を覚えてしまう。

先生はずっと職員研修をしていたでいてきたが、私たちにとって、ときに風雨の闇夜を航海する時の灯台のような存在であってくれたように思う。先生はいつも五年先十年先を見通すか

のような話をされるが、

それが必ず現実となってきた。

それと大きく感謝しなければならいのは全国のたくさんの有為な方々に会わせていただいたことである。人と人との縁（えにし）というつながりが、病院のみならず私にとってもほんとうに有難いことだった。感謝の念にたえない。

先生の毎月発行されている『社会医療ニュース』（今年で485号—なんと39年も続いている！）で兵庫県の院長先生の文章中に出てくるサミュエル・ウルマンの「青春」という詩に「年を重ねただけでは人は老いない。理想（志）を失うときに初めて老いがくる」というくだりがあるが、岡田先生にまさしくぴったりの詩だと思う。

ますます青春を謳歌し続けていきたいと思っている。

かわぞえ のぼる



10月の歳時記

近森オルソリハビリテーション病院
作業療法士 山中 美枝



月下美人はサボテンに咲く花です。皆さんはサボテンの花と聞いてどんな印象を持つでしょうか。私は硬くてトゲトゲした印象があります。しかし、この花は柔らかく、純白色でとても良い匂いがします。非常に短命で、一夜限りでしぼんでしまいます。花言葉は「はかない美、儚い恋、繊細、艶やかな美人」…咲いた花は天ぷらにすると美味しいとか。やまなか みえ

月下美人



絵・総務課
広報担当
公文幸子

感染管理認定看護師に認定されました。

感染サーベイランスなど さまざまな領域を担当

近森病院

シニア看護師長 近森 幹子



感染管理認定看護師認定審査に合格しました。感染管理認定看護師の役割

ハッスル研修医 ヤバレジ街道



初期研修部 寺西 裕器

初期研修が始まり早5カ月が経過しました。麻酔科、循環器内科、神経内科と回り、9月からERで研修させていただいています。科が変わるごとに雰囲気ガラッと変わるので、適応力のない自分にはしんどいことが多いですが、同期の皆や周りの先生方、コメディカルの方々に助けてもらいながら何とかやっています。

同期の皆が着実に経験を積み重ねてデキレジへの道を歩んでいる一方で、自分はヤバレジ街道を歩んでいるのではないかと不安の日々を送っています。自分で勝手に師匠とと思っている先生と一緒に当直に入らせてもらった時に「そろそろ半年経つんだから、それぐらい分らないと恥ずかしいぞ」と言われ、気を引き締めて勉強しないとヤバい！と改めて思っている今日この頃です。

自分に自信がなく大人しく「大丈夫か？元気がないぞ」といわれることもあります。デキレジへ軌道修正していきたいと思いますのでよろしく願います。

てらにし ゆうき

は、医療関連施設を利用する患者さんやご家族、訪問者、現場で働くすべての人々を感染源から守ることが主な役割です。

病院内での日々の活動は、医師や薬剤師、細菌検査技師などとともに、患者さんの感染症対策に留まらず、環境や清掃、職業感染対策、医療関連感染サーベイランスなどさまざまな領域を担当します。

感染対策の考え方や方法を、職員の方々に具体的にわかりやすく伝え、近森病院の感染対策をさらに充実させていきたいと思っています。また、高知県医療関連感染対策地域支援ネットワークや高知県 ICN ネットワークの活

動にも参加し、地域における感染対策活動も行っています。

感染対策の看護師長として、これまでも職員の方のご協力を得ながら活動してきましたが、今後はさらに勉強してきたことを活かして、活動していきたいと思っています。まだまだ勉強不足のこともありますが、日々勉強しながら前に進んでいます。皆さまの疑問や質問は、私自身にも大きな学びがたくさんあります。日常の業務や感染症患者さんの対応などお困りのことや疑問があれば、いつでもお声かけください。

ちかもり みきこ

リレーエッセイ

完走しました!!高知 「道の駅」スタンプラリー

近森オルソリハビリテーション病院

薬剤部主任 嶋崎 ユリカ



東は「室戸」、西は「大月」まで、県内21ヶ所にある道の駅のスタンプラリーを、この夏ついに完走しました！ふと立ち寄った道の駅で見つけたスタンプラリーチャレンジシート。県内でも足を伸ばす機会の少ない所がたくさんあることに気が付き、休日に少しずつ巡って行きました。

四万十川では5月の鯉のぼりの川渡しを初めて見るのができ、南西部では、タイミングよく干潮時に訪れた咸陽島まで歩いて渡り、故郷の足摺サニーロードからは海岸線の懐かしくも雄大な景色を眺めることができました。東部では、海沿いを走りながら、ちりめん丼、キンメ丼、海洋深層水の塩ジュレートなど海からの恵みに出会い、山間部では、日本一の大杉、棚田、山頂の風車、巨大なダムなどの風景や、きじラーメ



ン、ほうじ茶大福、チーズケーキなど地域の特産物を使用した美味しいものにも出会いました。

太陽と海山川の自然をいっぱい感じ、それぞれの地域が特色を活かして頑張っている様子を感じることができた高知再発見の旅、ますます高知が好きになりました。

しまさき ゆりか

夏休み 病院体験ツアー（職員の家族限定版）

消化器内科の「内視鏡治療の実際」で実技

初!

みんなあで子供たちを育てよう

「高知

県はひとつの大家族やき高知家
ながよ」からはじまったのがこの企画です。

きっかけは、何気ないスタッフの子供の進路話からでした。川井先生、各部署とも「いいねそれ!、やろうや! ウチら高知家近森ファミリーやき、みんなあで子供たちを育てよう」のふたつ返事でした。

夏休みに合わせて、準備期間がわずか1カ月間という弾丸ツアー企画でしたが、「見て! 聞いて! 感じる!」充実したツアーとなりました。「高知と縁のある人は、みんなあ家族。」「近森病院と縁のある人は、みんなあ家族。それで「いいね」です。大好評にて来春のツアーも予定しています。みんなあで、遊びに来てください。 かなめ のりよし

近森病院循環器内科

科長 要 致嘉

仕事って?」

▼循環器内科の「カテーテル治療の実際」

▼画像診断部「画像診断でどう写るの?」

▼中学生から高校生まで総勢 20 名が、近森病院のユニフォームを着て参加しました

▲「検査機器ではどう診えるの?」

▼神経内科で脳の A to Z を真剣に学ぶ

▼「救急車の装備って?」(救命救急センター)



わたしたち、PS サポーターと申します!

◀名札に貼っています

昨年度、近森会グループから PS サポーター (PS : Participant Satisfaction) として認定いただきました。これから近森グループの患者さんはもとより、私たち職員自身の満足を目指し活動していきます。挨拶や身だしなみなど応対面でお困りのことがあれば、簡単なレクチャーから勉強会まで承ります。お気軽にまわりの PS サポーターにお声かけ下さい。これから現場一番の精神で、積極的に出ていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します!



天皇皇后両陛下にご拝謁

近森リハビリテーション病院
理学療法士 村上 野志夫



皇居二重橋にて

今年の9月9日（月）に、皇居で天皇皇后両陛下にご接見を賜りました。両陛下は1965年の協力隊発足当初よりボランティア派遣事業に関心をお持ちになっておられ、毎年帰国した隊員の代表がご接見を賜っています。今回は8人の帰国隊員が選ばれ、私はタンザニアでの2年間の理学療法活動についてご報告をさせていただきました。たいへん緊張しましたが、両陛下がとても穏やかな様子で話を聞いて下さったことが印象的でした。

青年海外協力隊の目的をあげておきますと、開発途上国の発展と復興に貢献すること、途上国との友好親善・相互理解を促進すること、などがあります。

むらかみ やしお

乞！熱烈応援

広い視野を持って

信頼されるよう



近森オルソリハビリテーション病院
事務長補佐 中山 潤一

これまでシステム管理室では、主に電子カルテをはじめとする医療情報システムの管理、処置オーダのマスター管理、薬剤使用実績や病名に関するデータ抽出、がん化学療法の電子化等の業務に携わってきました。

これからは医事会計や施設管理、行政機関への届出、病院実績の集計など業務内容が多岐にわたっていますが、広い視野を持って柔軟に対応する事を心掛けていきたいと思えます。スタッフの皆様には色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導の程宜しくお願い致します。

なかやま じゅんいち



近森病院ハートセンター
看護師長心得 田中 真貴子

「未熟者の私には無理です!!」このお話をいただいた時の第一声です。看護部長や先輩看護師長から魔法の言葉をかけていただき、悩みに悩んだ末、前に進んでみようと思えました。心臓血管外科の開設時からCCU、病棟、外来とで術後の患者さんに関わってきました。その経験と知識をいかし、クリニカルコーディネーターとして治療をおえた患者さんが元の生活に戻れるよう、新しい生活に移れるよう、いちばん近い存在でお手伝いできたらと思っています。患者さんにはもちろん、職員の方にも信頼されるよう努力してまいります。

たなか まきこ

特別寄稿

再び脳梗塞で倒れて（下）

沼 敬

ぬまたかし。昭和22年高知市田淵町（当時）生まれ。平成22年三菱商事（上海）有限公司上海万博担当就任、上海で脳梗塞発症後退職。現在近森リハビリテーション病院にて通院リハビリ中。



近森病院に入院して以来、OTやPTの療法士の皆さんを始め、看護師や介護士さん等、凡そ一人の入院患者を取り巻く病院の全ての職種のスタッフに、まるで「帰って来た家族或いは久しぶりに再会した級友を迎える」が如き対応を受けたからです。

気軽に声を掛けてくれたり、通りすがりに一言基礎的なアドバイスやヒントをくれる方が後を絶えませんでした。それは、厳密にいうと、任務の一部では無いかも知れませんが、現実にはその様な対応を受けた私に取っては、ただ感激の一言、入院中に於ける何よ

りの励ましとなったのです。

一方、今回の入院を機に装具を見直す事になったのですが、日頃正しく装着出来て居ないまま使用して居たのか或いは使用過多が原因なのか？それ迄使用して居た「長嶋モデル」と呼ばれる短下肢装具の、一番肝心の油圧部分が、既に機能しなくなって居り、修復は不可能で有る事が判明したのです。実際の生活や自主トレに於いて、単に体が動く様になったと言う表面上の変化にばかりに気を取られ、転倒などの危険も無いのに、何時の間にか自己流で楽な歩行や動作をする様になって居

たのでしょう。本来もっと鍛えられて然るべき筋肉が、実際にはそうなって居ない事に気が付かなかったのですが、結果として、「乱れたフォームでの歩行により装具を酷使したも同然」と言う事になり、結構「高価」な代償を招いてしまい、自分自身も流石に大いに反省をした次第です。

二回目の発症となった今回、異変を自覚した時は、未だ比較的冷静に自身で判断が出来たので、自宅から距離が近い事でもあり、迷わずタクシーを利用しました。意外に時間が掛かる救急車の実態から見て、例えば脳卒中の様に一刻を争う事態に備え、自家用車やタクシー利用を含め、常日頃から最も適した方法を二つ三つ腹案として持って置く事の重要性を再認識しました。

兎に角迅速に判断、対応出来た事が、「再発時の方がもっと厄介」だといわれて居る割には比較的軽症で済んだ事の原因ではないかと思っております。

感染対策委員会の役割の重さを肝に銘じて……

化学記号にも片仮名にも抵抗なし

高知大学理学部物質科学科生体機能コースで4年間学び、仕上げる卒論で取り組んだテーマは、水中に生息する単細胞生物テトラヒメナの持つ酵素の力だった。と聞いても、素人にはおおよそイメージの湧きにくい専門分野なのだが、論文には化学記号や片仮名や横文字の表記がいっぱい並んでいる。肉眼では見えない世界を対象とする点では、細菌や感染と対決し続けてきた感染対策分野との共通項が垣間見えるのかも知れない。

彼女が現在関わっている感染対策委員会の関係資料や議事録、週報などにそのまま使える知識を、大学で4年かけて学んでくれたようなものだろうが、「一見、そう見えるかも知れませんが、全く違います。覚えることばかりです」と、おでこの汗をぬぐっている。

直属の上司である近森幹子シニア師長は「事務方というのは、こんなに何でもチャチャチャッとできるものかねえ、仕事速いよ～。それに歴史にもゲームにも動物にも強い」と、委員会の秘蔵っ子を自慢げに紹介してくれた。

生き物相手の喜び

知識が深いのは凝り性で勉強熱心だからだろうが、動物に強いのは子どもの頃からの環境が関係しているようだ。

三姉妹の末っ子で、姉二人とは歳の差もあり、そんなに遊んだ記憶はないそうだが、「姉たちが拾ってきた猫を、結局世話しているのは自分」だったし、犬や猫はいうまでもなく、鶏やウサギも飼い、その世話係りをいつも任されていたという。

大学の卒業を控えたある日、たまたま目にしたペットショップの開業チラシで、自分の好きな生き物に仕事で関われるなら、と応募。合格後の配属先は「魚」部門だったため、大学の延長みたいにその生態から勉強した。

感染対策委員会の事務担当

そして4年間。熱帯魚や海水魚のオー



▲7年目を迎えた週いち実施の感染対策委員会ラウンド（院内巡視）でのひとこま

ソリティに憧れ、自分のなかではほぼ「卒業」と思ったころ、近森会の事務方の募集を知り、感染対策委員会の事務担当として勤めることになった。

グループ全体では80人、近森病院だけでも40人近い感染対策委員がいて、平成2年8月1日に発足以来、すでに23年を経過した感染対策委員会の事務担当には、現場のデータをすばやく客観的にどう発信するか、期待される役割も大きいのだろうが、それがむしろやり甲斐に繋がっているようで、力強い。

頼まれた仕事には即対応する！ことを心がけているそうだが、仕事の難しさにアップアップの日々でもあるようだ。

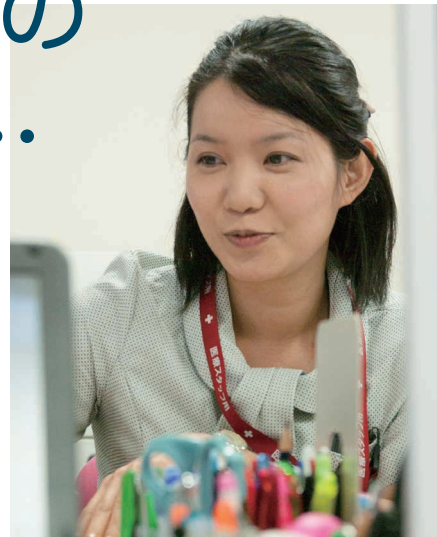
大切なのはチームワーク

中学時代は、県内に女子チームがわずか二校しかないハンドボール部に所属し、従って四国大会の常連、県内に対戦相手がなく、県外へ遠征に行くこともあった。

「厳しい練習もチームの仲間と乗り越えたときの達成感でふきとんだ。自分だけが動いても、周りとの兼ね合いがなければうまくいかない」。チームワークの大切さを学んだという。

抜かりのない確実な数字を求めて

人を押しのけて成果をアピールするような激しさはない代わりに、役所への届け出書類をはじめとした抜かりのない確実な数字が求められる部署で、きちんと細かい数字に向き合えることが嬉しい彼女の働きは、委員会を裏でしっかり支えているのだろう。



▲なんか恥ずかしいですねえ～。こういうとき、どんな「顔」をしたらいいんでしょう(笑)



▲歓迎会、お疲れ会など色々かこつけて開かれる職場の交流会で、諸先輩に囲まれて

▶小学2年生のとき、流行りのセーラムーンポーズで、近所の子犬と離れがたく…。統括看護部長と近森シニア師長のたつての希望(笑)で、アルバムから選ばれた『わたしのこの一枚』



おめでとう

編集室通信

車を降り自宅へ向かう途中「すこし寒くなったな」と思いながら歩いていたら、周りの家から夕食の作る音や、美味しい匂いが風にのってやってきました。涼しくなったからみんな窓をあけていて、それぞれ家の音が聞こえる瞬間が、なんとも秋めいていると感じ、少しでも長くこの心地よい秋を楽しみたいと思いました。 由似

図書室便り (2013年8月受入分)

・OS NOW Instruction 整形外科の新標準 27 整形外科の Day Surgery 日帰り手術のコツとピットフォール／馬場久敏(担当編)
・軟部腫瘍診断ガイドライン 2012／日本整形外科学会(監修)
・大腸癌取扱い規約 2013年7月 第8版／大腸癌研究会(編)
・嫌気性菌感染症診断・治療ガイドライン 2007／日本化学療法学会(他編)
・これで安心! 症状・状況別ポジショニングガイド／田中マキ子(他編)
・こうして減った! 転倒転落事故防止リスクアセスメント&グループワーク／中間浩一

・日本の医療政策 成り立ちと仕組みを学ぶ／岩淵豊
《別冊・増刊号》
・別冊・医学のあゆみ 骨免疫学—研究最前線／高柳広(編)
・月刊 Medical Technology 別冊 超音波エクスパート 14 消化管エコー UPDATE スキルアップをめざして／畠二郎(他編)
・週刊ダイヤモンド臨時増刊 2013 5 / 1 頼れる病院／ダイヤモンド社(編)
・臨床心理学増刊第5号 実践領域に学ぶ臨床心理ケーススタディ／村瀬嘉代子(他編)
《視聴覚資料》
・キラリ! 看護のシゴト／公益社団法人日本看護協会(企画)

2013年8月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,868 人
新入院患者数	800 人
退院患者数	848 人

近森病院

平均在院日数	14.30 日
地域医療支援病院紹介率	87.13 %
救急車搬入件数	441 件
うち入院件数	222 件
手術件数	394 件
うち手術室実施	242 件
→うち全身麻酔件数	138 件

● 平成 25 年 8 月 県外出張件数 件数 49 件延べ人数 80 人 ●